

- 誤り訂正符号化

ここまでで学籍番号から 13byte (8bit の組 13 個) からなる情報語を作った。次に、これに誤り訂正コード語を加えて符号語をつくる。

1-Q 型の QR コードでは RS 符号 (リード・ソロモン符号) と呼ばれる符号化法を用いる。RS 符号は $GF(2^8) = GF(256) = \mathbb{F}_{256}$ という数の体系を用いて作られる。 \mathbb{F}_{256} は $GF(2) = \mathbb{F}_2$ に

$$\gamma^8 + \gamma^4 + \gamma^3 + \gamma^2 + 1 = 0$$

をみたす γ という“虚数”を付け加えた数の体系である。 \mathbb{F}_{256} の数は γ の 7 次以下の多項式で表され (加法表示), 8 bit = 1 byte の情報を保持する。また, \mathbb{F}_{256} の 0 以外の数は γ^k ($k = 0, 1, \dots, 254$) と表せることも思い出しておく (乗法表示)。

これまで作成されたデータは 13 byte あるが, その各 byte を γ の 7 次以下の多項式とみなし, \mathbb{F}_{256} の数とみなす。たとえば, 1 行目の “00100000” は γ^5 , 2 行目の “01011000” は $\gamma^6 + \gamma^4 + \gamma^3$ などとする。そして, この 13 byte の情報語から, 係数が $GF(2^8)$ の要素である x の 12 次の多項式をつくる。こうして情報語から

$$q(x) = \gamma^5 x^{12} + (\gamma^6 + \gamma^4 + \gamma^3)x^{11} + \dots + (\gamma^7 + \gamma^6 + \gamma^5 + \gamma^3 + \gamma^2)$$

という情報多項式で表せる。

BCH 符号では, 情報多項式 $q(x)$ から生成多項式 $g(x)$ を用いて送信多項式を作るのであった。RS 符号でも, BCH 符号と同じ要領で送信多項式を作る。RS(26, 13) では, 生成多項式 $g(x)$ を

$$g(x) = (x - 1)(x - \gamma)(x - \gamma^2)(x - \gamma^3) \times \dots \times (x - \gamma^{12})$$

として, 送信多項式 $u(x)$ を $g(x)$ を用いて次のようにする。

$$u(x) = q(x)x^{13} + (q(x)x^{13} \text{ を } g(x) \text{ で割った余り})$$

次回, Mathematica を用いて $u(x)$ を計算し, それを元に QR コードを作ってみることにする。